藤等の研究により、分類、生態各方面で次々と新事実が報告されている。しかしハエ類の幼虫に関しては、分類、生態、駆除の各方面において不明の点が多。一方臨床方面で蠅蛆症 (Myiasis) が屢々見られ、之ら寄生蛆の鑑別が要求されるし、又駆除事業を行うに当つて如何なる場所に如何なる蛆が発生しているかを調査する必要がある。そこで私共は約1年間に亘り、先ずハエ類幼虫の分類を志し、ニクバエ科10種、クロバエ科13種、イエバエ科6種、合計29種の衛生上有害なハエ類の幼虫を得ることに成功した。方法は野外で卵の成熟した雌成虫を捕え、腰高シャーレ内に個別飼育して、卵、各齢幼虫、蛹、更に次代の成虫雌雄を得るのである。現在まではニクバエ科及びクロバエ科に重点を置いた爲、之らは大部分の種類を知り得たが、イエバエ類は極めて重要なもののみを飼育した。現在までに判明した29種の幼虫は前気門、後気門、咽頭骨、各体節前後縁の棘の配列、後端肉質突起等の形状により、属は勿論種の鑑別も可能である。各種についての記載鑑別、検索表等は別の機会に発表することとし、ここには幼虫の判明した種名を挙げるにとどめる。クロバエ科: *Calliphora vomitoria*, *Aldrichina grahmi*, *Triceratopyga calliphoroides*, *Lucilia ampullacea*, *L. caesar*, *L. illustris*, *L. papuensis*, *L. tokyensis*, *Phaenicia sericata*, *Ph. cuprina*, *Phormia regina*, *Protophormia terrae-novae*, *Chrysomya pinguis*, ニクバエ科: *Sarcophaga peregrina*, *S. similis*, *S. melanura*, *S. crassipalpis*, *S. albiceps*, *S. tsushimae*, *S. striata*, *S. kawayuensis*, *S. septentrionalis*, *S. sp.* イエバエ科: *Musca domestica vicina*, *Muscina stabulans*, *Stomoxys calcitrans*, *Op-hyra leucostoma*, *Fannia canicularis*, *Fannia scalaris*.

[傳染病研究所衛生動物研究室]

日本産クロバエ科(Calliphoridae)

雌背腹板の形状による分類

Kano, R. and Sato, K.: Taxonomic studies on the Japanese Calliphoridae by the morphology of female abdominal tergites.

加 納 六 郎 佐 藤 孝 慈

クロバエ科の雌産卵管の背腹板による分類は Patton が1934年にオビキンバエ属 (*Chrysomya*) の数種に、

1935年にクロバエ属 (*Calliphora*) の数種について記載しているが、キンバエ属その他のものの記載はない。日本においては、此の方面に関する報告が全く見られない。実際に腐肉等集るものは雌の方が雄よりも遙かに数が多く、諸方面の研究に際して雌の分類は極めて重要な意義をもつ。

しかるに雌の種の鑑別特にキンバエ属では之が甚だ困難であつて、現在までは頭部の計測等に頼つていた。しかし此の計測はその差が僅であるので手技煩雜且つ不正確な欠点がある。著者等は雌産卵管背腹板のみならず第1～第5腹板の形状を合わせ調べると、極めて類似の種でも明瞭に鑑別し得ることを見出し、之を基に検索表を作り、實際面に應用している。現在まで日本で記載されているクロバエ科のハエは14種であり、著者等は此の14種について記載を試みた。

その詳細は省略し、ここにはその種名を記すにとどめる。即ちオオクロバエ *Calliphora vomitoria*, ケバカバエ, *Aldrichina grahmi*, フタオクロバエ *Triceratopyga calliphoroides*, クロキンバエ *Phormia regina*, ルリキンバエ *Protophormia terrae-novae*, ホホグロオビキンバエ, *Chrysomya pinguis*, オビキンバエ, *Chrysomya megacephala*, キンバエ, *Lucilia caesar*, コガネキンバエ, *Lucilia ampullacea*, ミドリキンバエ, *Lucilia illustris*, ミヤマキンバエ *Lucilia papuensis*, トウキョウキンバエ, *Lucilia tokyensis*, ヒロツキンバエ, *Phaenicia sericata*, ヒツジキンバエ *Phaenicia cuprina* の14種である。 [傳染病研究所衛生動物研究室]

東京附近のキンバエ類の一種について

Hori, K.: On a common species of the green-bottle fly obtained in and about Tokyo. (A new record of the genus *Hemipyrellia*.)

堀 克 重

東京都内やその近郊では、特異な形態を有する一種のキンバエの類が採集される。本種の特徴は、雄の額の幅が狭いこと、正中剛毛の配列が2+2であること、GS₂に側板に沿う長い突起を有すること、及び雄の交尾器其の他の形態であつて、本邦産の他の既知種とは容易に区別される。

Hemipyrellia ligurriens (Wiedemann, 1830) (トウキョウキンバエ) の特徴は次のようである。

頭部: (雄), 額は頭幅の約 $1/10$ で両複眼は極めて接近する。額帯は側縁部とほぼ等幅である。触角の第3節の長さは第2節の約4倍。顔側面には刺毛列がない。

(雌), 額は頭幅の約 $2/7$ でかなり狭い。額帯は側縁部の約2倍。

胸部: 輝緑色, 正中剛毛 2+2, 但し後部正中剛毛の位置は隣接亜背剛毛と同列乃至は幾分後方である。

翅: 全面にわたり透明で, 基部も特に淡褐色を呈することがない。Bascosta 黒色。Subcostal sclerite には十数本の刺毛がある。鱗弁白色。

腹部: 第3, 第4及び第5背板の後縁には通常黒藍色の狭い帯がある。雄の交尾器は特別に隆起することはない。第2の G.T. には腹方に出る突起がある。交接茎, 尾板及び側板には共にかなり明瞭な特徴がある。

体長: 6~8 mm で, 個体によりかなりの変異がみられる。

分布: 今までの調査では東京や, 八丈島等に分布することが分つた。 [資源科学研究所]

東京に於ける蠅の季節的消長の考察

Sato, K. and Iida, S.: Seasonal occurrence of the flies of the city of Tokyo.

佐藤 孝慈 飯田 鈴吉

我々は傳研構内の厩舎に近いゴミ捨て場に於て, 1949年8月3日より1951年1月17日迄の約1年半にわたつて, 蠅取瓶3個を用い蠅の採集を行い, 其の季節的消長を調査した。誘引物としては魚の内臓, 野菜クズ, 新鮮な馬糞を用いた。約1年半を通して蠅の種類は, *Lucilia*, *Phaenicia*, *Ophyra*, *Calliphora*, *Aldrichina*, *Sarcophaga*, *Muscina*, *Musca*, *Fannia*, *Chrysomya* の10属10473正であつた。全体を通じて一番多かつたのは *Lucilia* で52.8%, 次は *Ophyra* の19.5%であつた。又雌雄の捕虫率では, 大部分の種類が70%以上雌であつた。4月以後の *Aldrichina* は雄46%, 雌54%で他に較べて接近して居るのが見られた。

蠅全体をまとめて月別の平均にしてみると5月に最大の山が見られたが, 大体各種とも春から初夏にかけての

大きな山があり初秋に一度減少して秋に又小さな山が出来る双峰形を呈するが, 尙春先に小さな山を見るものがある。此の内 *Musca* のみは8月に最大の山が見られ5月と10月に小さな山があつた。

之に反し *Muscina* は5月に最大の山があり盛夏に減少し初秋に小さな山を呈する。*Ophyra* は6, 7月頃最高で, 其の前後に割に幅広く出現し, *Sarcophaga* も *Ophyra* と同様であるが, 最高がやや前にずれている。*Lucilia* は5月が最高で, その後急に下るが, *Phaenicia* は5月より段々と増し7月が最高で, 其の後下り, 下り方も *Lucilia* より緩かである。*Calliphora* と *Aldrichina* では *Calliphora* は4月に大きな山を作り, 6月以後1匹も現れず, 秋に春以上の山を呈するが, *Aldrichina* は4月より5月が最高で6月にも少数見られ7月以後1匹も現れず, 秋に又小さな山を呈するのが特徴である。

傳染病との関係を見ると1昨年8月以後東京の赤痢と小兒麻痺の発生数とを比較してみると赤痢の山は家蠅の山と大体一致する。又小兒麻痺の山と *Calliphora* の山が類似するのは興味深い事で今後の研究を要する問題である。

[傳染病研究所衛生動物研究室]

仙台近郊に於ける夏期の蠅族幼虫の棲み分け

Katō, M. and Hori, K.: Larval association of flies during the summer in Sendai and its vicinity.

加藤 陸 奥雄 堀 克 重

1950年8月仙台近郊に於て塵芥・畜糞・厩肥・便池等より蠅の幼虫を採集し羽化させた結果からその棲み分け現象を吟味した。

著者等が以前から用いている相関法(元村, 1935)を以て群集生態的な解析を行つた。

1. 塵芥: 30ヶ所から13種を認めた。群集の型を解析した結果次の10型を区別出来た。

a) *Musca domestica vicina* を絶対優占種とするもの(16カ所)。

b) *Lucilia cuprina* を絶対優占種とするもの(4カ所)。

c) *M. d. vicina* 及び *L. cuprina* をほぼ同密度とするもの(3カ所)。